

## 【優秀賞】

# 赤ちゃん人形の活用

～私たちみんなのアイドルとして～

大阪〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課

○佐藤智久 新谷典子

### 【目的】

要介護の入居者の中には、時々不穏になる人がいる。スタッフを目で追ったり、呼びとめたりするのは寂しさを感じていたり、話し相手を求めているのかもしれない。また他入居者の世話をするのが好きな人は、何か自分の役割を探しているのではないかとと思われる。ご主人を探したり、子供の食事の準備をしないといけない、と言われる人は、自分の居場所や愛する家族を求めているのではないかと推察される。

赤ちゃん人形を私たちの家族のように認識することで、愛する対象が得られ、落ち着いた生活を取り戻すきっかけになれば、と考えて取り組みを行うこととした。

### 【方法】

- ・12階デイルームを利用されているAさん（要介護5）、Bさん（要介護4）、Cさん（要介護2）の3名の入居者を対象とした。
- ・生活の中に赤ちゃん人形を取り入れた時の様子、活用する前の生活との比較を、スタッフの記録から読み取り、効果があったかどうかを確認する。
- ・一人当たり、2週間程度記録を取った。Aさん（2019年7/1～7/13）、Bさん（2019年7/14～7/28）、Cさん（2019年7/29～8/12）。

### 【結果】

Aさん：68%（人形と関わる機会34回のうち、良い効果が得られたことが23回あった）

Bさん：71%（人形と関わる機会24回のうち、良い効果が得られたことが17回あった）

Cさん：79%（人形と関わる機会14回のうち、良い効果が得られたことが11回あった）

### 【考察】

Aさんは、人形に頬ずりしたりキスするなど、3名のうち最も感情をストレートに表現した人だった。全く関心のない時には見向きもしないこともあったが、少し興奮しそうになった時に赤ちゃん人形をあやしてもらおうと、「そうか、そうか」と言われたり、「いないいないばあ」をしたり、「かわいいねえ、こんな娘がいたら良いわあ」と言われたりして、穏やかな表情になった。

Bさんは、人目を気にして、感情をあまり出さないようにする面があったが、レクリエーションに誘った時には「この娘をみなアカンからせえへんよ」といいながら人形をずっと抱っこする場面があった。

Cさんは、食事中も人形を抱いたままだったり、人形を抱いて廊下を歩いたりしていた。また、口腔ケアを嫌ったときにも、お孫さんが“きれいにしている姿を見せて”と書いていますよ、と声かけすると「私も見本をみせましょう」と歯みがきに応じる場面もあった。

### 【結論】

赤ちゃん人形が高齢者を穏やかな気持ちにさせることについては、一定の効果があった。そしてその効果を高めるには、入居者だけでなく、私たち職員も一緒になって、ある時は本当の赤ちゃん、ある時はただの人形として、想像力豊かに接することが重要だと感じた。

## 【優秀賞】

# 浄化槽排水量削減について 2

～前回からの経過報告と次期の課題～

京都〈ゆうゆうの里〉 事務管理課

○北村昭夫 脇田康次 京咲翼

### 【目的】

2015年度、浄化槽の排水量が1日300tを超過する日が続き、保守業者より忠告があった。そのため、排水量の削減を目的に、節水の取組を始めた。その結果、少しずつではあるが削減することができた。取組を始めてから5年目になる今年、これまでの経過をまとめ、報告することにした。

### 【方法】

#### ◆2015年度の取組内容

- (1) 1日の排水量のデータ測定・分析
- (2) 各浴場の差湯量及び稼働タイマーの設定調整等

#### ◆2016年度以降の取組内容

- (1) 共用部の混合栓に節水効果のある部品の設置
- (2) 漏水箇所の修繕
- (3) 設備機器や配管の劣化診断を実施。耐用年数がないところから順次更新を計画

### 【結果】

共用部の浴場や洗濯室、洗面手洗い場等の混合栓に、水量を削減することができる部品を設置し、定期的に状態を点検し、一定の節水効果があったことを確認。

設備機器や配管類の劣化診断を実施。その結果、浴場やCC棟の配管の寿命がほとんどなく、部分的にも漏水が発生している状態だった。そのため、更新を行った。諸々の取組を実施した結果、2016年度：104,106t、2017年度：103,615t、2018年度：102,885tと年々排水量を減らすことに成功し、年間平均で、1日282tにまで抑えることができた。

### 【考察】

差湯量の調整や、経年劣化した設備の更新、節水効果のある部品の取付け等の取組を行い、継続して行っていた取組で効果があり、結果に結びついた。

### 【次期の課題】

排水量の内訳で考えると、居室の占める割合も多いため、今後は、居室のトイレや混合栓も、節水効果の高い物に更新して行きたいと思う。また、水道メーターが棟毎に設置されていないため、細かく水道量を把握するために、費用対効果も考えながら設置できたらいいと思う。さらに、設備だけではなく、職員にも、節水の協力をお願いする。

### 【結論】

排水量削減を目標に取り組んでいたが、今後は給水量の削減にも繋げられように取り組んでいきたいと思う。

## 【優秀賞】

# 介護居室におけるトイレ仕様の研究

～快適な介護居室空間の向上を目指して～

本部 サービス支援部

○東梨香 池野修平 黒岩卓朗

### 【目的】

各施設で介護居室の改修計画が多く進行している。その中で、介護居室のトイレについて、建築的な目線と入居者並びに介護職員の双方にとって使い勝手のよいトイレとはどのようなものか、という視点で研究に取り組んだ。

### 【方法】

最新の介護施設のトイレについての情報を収集し、施設の担当者（ケアセンター新築を予定している伊豆高原施設）等と情報を共有しながら意見交換し、現状で考えられる最適のトイレについて考えることとした。

### 【結果】

大手メーカーのショールームの見学、そこでのレイアウトの検証を行い、最新情報を基に以下のような結果を得た。

#### ① トイレの配置について（転倒防止）

一般的には、配管の関係で居室の廊下側にトイレを設置するレイアウトが多い。しかし、トイレの開口部を居間（bed）側に設けることで動線が短くなり、転倒リスクの軽減につながる。また認知症の方は、便器が視覚に入ることで「トイレ」と認識できるという効果もある。しかし、居室の出入口付近がデッドスペースになってしまうことや、配管のメンテナンスが行いにくいことがマイナス要因でもある。

#### ② トイレ内の（便器）レイアウトについて

便器を開口部と並行して設置した場合は、体を90度回転させることで便器に移乗することができるが、開口部に対して正面に設置した場合は、体を180度回転する必要があるため入居者の負担が増えてしまう。

#### ③ トイレ内の仕様について

「ロータンク式の便器」は介護職員の腕が入居者の背部まで届くため、両手でしっかり支えて介助ができる。「背もたれ」があると座った姿勢が安定し長時間の座り姿勢が楽になる。「前方ボード」は前傾姿勢を支え、排泄がしやすい。跳ね上げ式とスイング式があり、スイング式は、前傾姿勢のままボードがスライドしていくので立ち上がりやすく、介護職員の負担軽減になるが、跳ね上げ式に比べるとコストが高いのが難点である。

#### ④ 電気温水手洗器について

トイレ内に温水の手洗器を設置することで、入居者はもちろん介護職員の手洗いや陰部洗浄の際に使用のお湯汲みができるが、温水器は約8年毎に更新が必要となるので、ランニングコストも考慮して設置を検討しなければならない。

### 【考察】

今回、上記のような情報を整理することにより、情報が日々変化している現状を知ることができ、過去に我々が把握していた知識を更新することができ、伊豆高原施設の新規ケアセンターにもその知識を応用することができた。

### 【結論】

介護居室におけるトイレの環境をハード、ソフトの両面から整備し、入居者の排泄の自立、介護職員の負担軽減につながっていくよう、これからも研究を深めていきたい。

## 【優秀賞】

### You' re not alone

～グリーフケアを通してみえてきた、生活支援担当としてできること～

京都〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課  
○中川リノ 森志江 藤岡篤史 流郷三香

#### 【目的】

2018年度の取り組みで、「悲嘆のプロセス」を意識し対応したグリーフケアは有効であると確認できた。同時に関係構築の重要性も伺い知ることができた。そこで今年度はよりよいグリーフケアを実践するため、生前からの関係構築を強化する取り組みを実施することとした。この活動を通じて、生活支援担当として、自立期から入居可能な〈ゆうゆうの里〉だからこそのサポート方法を見つけたいと思う。

#### 【方法】

- 《取り組み1》情報の取得範囲の拡大（日常）：グリーフケア対象の入居者（以下、対象者）だけでなく、要介護状態にある家族に関する情報も収集することとし、その状態の変化を把握できるようにした。
- 《取り組み2》積極的な声掛け（日常）：対象者の身体状況を気にかけて、疲れが出ていないか気を配り、お会いした際は積極的に声かけを行い関係構築に努める。
- 《取り組み3》看取りケアに関わっている対象者への積極的支援（看取り期）：看取り会議に生活支援担当として参加すると共に、お見舞いに同行し、家族の状態と一緒に受け止める。合わせて、様子伺いの頻度と傾聴の時間を増やす。
- 《取り組み4》グリーフケアの改善（逝去後）：チームケアができるようにすると共に、節目での声掛けを実施。深い交友関係があった友人に対しても同様の対応をする。

#### 【結果】

情報取得範囲を広げたことで変化に早く気付け、対象者へのアクションがおこしやすくなった。積極的な声かけだけでは関係構築できず、何う側にたつ方がよいとわかった。看取り期の支援を行う事で関係構築に非常によく繋がった。グリーフケアの改善をしたことで、チームで取り組む意識が深まった。節目の声かけで、「あなただから話せる」と言って頂け、たくさんの気持ちを知ることができた。

#### 【考察】

生前から関係構築できたことで、不安や葛藤が共有でき受容しやすくなったと考える。自立者に常に関心に向けられる環境になったことで、より深化できた。自立期から入居できる事で、職員と経過を共にでき、もしもの時もサポートが可能。そのことにより関係も深まり、より安心して充実した生活をして頂けると考える。

#### 【結論】

自立期から入居可能な〈ゆうゆうの里〉だからできる、有効なサポート方法はあるとわかった。そして、グリーフケアにも準備が必要だと感じた。その時その人に急に関わろうとするのではなく、自立期から関係を作り情報を掴んでおく事が、寄り添ったサポートに繋がりが、その人らしい生活に繋がると確信がもてた。今後も、自立期から関わりをもてる利点をいかして、ケアの在り方を追求していきたい。

## 【会場賞】

### 仲間と共に働きやすい環境づくりを目指す

～5S 活動を実施し継続するためのノウハウとは?～

佐倉〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課

○田口尚美 鈴木恵利 緒方秀和

#### 【目的】

生活サービス課では、毎日朝礼前の5分間を「5S活動」の時間として清掃を実施している。今年度より佐倉施設の5S委員となり、改めて「5S活動」の意味を調べてみると「掃除をする」だけではなく、様々な目的や効果があることが分かった。私自身、今までは5S活動＝清掃と捉えていたが、目的や効果を周知した上で「5S活動」を実施することにより職場環境が綺麗になるだけではなく「職場の体質の改善」や「協力し合える人づくり」というものができるのではないかと今回の取組では、5Sの中でも「清潔・躰」の部分に着目、活動を仕組み化し、継続していくことにより「働きやすい環境づくり」を目指していく。

#### 【方法】

2019年4月～10月、生活サービス課において、以下5S活動を行う

- ①5S本来の目的と効果、定義を周知
- ②必要な5S実施項目を洗い出し、業務へ手配し活動を実施する（仕組み化）
- ③取組み前後の事務所内の写真を撮影し、どのように改善がされたのかを比較
- ④取組み前後で以下の調査を行い、比較することで、効果を測定
  - ・5Sアンケート(自由記述)
  - ・5S評価チェックシート(5Sに関する13項目についての5段階評価)

#### 【結果】

取組前後の写真を比較したことで目に見えて職場環境が改善されてきたことが分かった。

必要な5S項目を「仕組み化」し業務に組み込んだことで、改善された状態がキープできている。5S評価チェックシートについては、13項目すべてで改善の評価が見られた。アンケートの結果について「取組前は整理・整頓ができていない」との内容が多かったが、取組後は「整理ができてきた、きれいな状態が継続されている」との内容が多くなってきた。

また「職員が協力し合い、働きやすい環境になっている」「協力し合うことで、人間関係も良くなっていると思う」という「人づくり」に関する内容もあがっていた。

#### 【考察】

5S活動の目的を周知→課題のあぶり出し→5S改善シートや業務化による改善活動→5S評価チェックシートによる採点化と自由記述によるアンケートによる評価。このようなサイクルを回すことにより、5S活動の仕組みが定着してきた。5S活動を継続するためには「躰」として業務に組み込むことは有効であることが分かった。5S本来の目的と効果を周知したことも職員の意識改善につながったのではないかとと思われる。

#### 【結論】

手の空いた職員が他の職員の仕事を手伝うという「当たり前のことが当たり前ができる」協力体制も出来上がってきており「職場体質の改善」がされてきている。私たちの行っている業務は何よりも連携を取り協力し合うことが重要であり「協力し合える人づくり」の強化は必須である。確実に芽を出してきた「働きやすい環境づくり」の取り組みをさらに継続し、今後は5S委員会を通じて、生活サービス課だけではなく他課へも展開していきたいと考えている。